

農政の動き 10月28日～10月31日

◎温室効果ガスの世界平均濃度 史上最高を更新

世界気象機関（WMO）は、2016年の主な温室効果ガスの世界平均濃度がいずれも観測史上最高を更新したと発表した。二酸化炭素（CO₂）が前年比3.3ppm増の403.3ppmとなったほか、メタン（CH₄）は9ppb増の1853ppb、一酸化二窒素（N₂O）は0.8ppb増の328.9ppbに上昇した。なお、WMOは、最近数十年間のCO₂濃度の増加速度は、過去数十万年間の濃度変動と比べ前例のない速度となっていると指摘し、対策の重要性を強調している。（30日）

◎春肥料の高度化成 1.1%引き下げ

J A全農は、春肥料（2017年11月～18年5月適用）の主要品目価格のうち、代表的な複合肥料の高度化成（チッ素、リン、カリが各15%）は、県J A・経済連向け供給価格ベースで10月までの秋肥価格に比べ1.1%引き下げると発表した。チッ素肥料のうち、尿素（輸入）は2.9%下げ、硫安（大粒）は0.8%下げる。なお、今回から銘柄を集約し新たな購買方式に転換する高度化成一般とNK化成一般の価格は年末までに決める。（31日）

◎9月の米国産牛肉の輸入量が急増

9月の米国産牛肉の輸入量が冷蔵は前年同月比48.9%増の1万3632ト、冷凍は同20.6%増の1万405トになったと、農林水産省が公表した。赤肉を中心とした国内需要の拡大が要因で、8月から緊急輸入制限措置（セーフガード、SG）が発動され、関税率が引き上げられている冷凍牛肉も前年を上回っている。なお、同省は、SGが発動されても輸入業者がすぐに仕入れ先などを変更するわけではないものの、「SGがあること自体が急激な輸入増加の抑制につながっており、今後もその役割は重要」（食肉鶏卵課）と強調している。（31日）

◎米輸出プロジェクトに233団体が参加表明

農林水産省は、米の輸出拡大に向けて新たに立ち上げた「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」に10月末時点で、農協や農業法人など200団体と輸出先国での販路開拓に取り組む米卸など33事業者が参加を表明したと公表した。プロジェクトでは、2019年までに米の輸出量を現在の約4倍の10万トにする目標を掲げているが、すでに33事業者の目標数量の合計は12万5千トに上っている。（31日）

◎バター需給 年末に向けて安定の見通し

農林水産省は乳製品需給等情報交換会議を開き、最需要期となる年末に向けてバターの需給は安定的に推移するとの見通しを改めて示した。9月末の在庫量が過去の水準を上回り、年末に向け4千トの輸入バターの売り渡しが予定されているため。（31日）